

国立国際美術館 収集の概要（令和7年度）

国立国際美術館では、現代美術に特化したコレクション形成を行う美術館として、日本の美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするために必要な美術に関する作品・その他資料のうち、1945年以降を重点的に収集している。なかでもとりわけ、同時代性の高い先端的な美術を中心に調査・研究を行い、総合的な影響関係を踏まえつつ、ジェンダーバランスの是正や、非欧米地域の動向、国内の地域バランスにも配慮しながら、今後の美術史に寄与する作品を体系的に収集している。

令和7年度は、現代の肖像画表現を刷新したアメリカの画家エリザベス・ペイトン、急速な社会変容とデジタル文化を映し出す中国のアーティスト、ツァオ・フエイ、未来社会や人類の協働を主題とする韓国のアーティストデュオ、ムン・キョンウォン&ジョン・ジュン、そして歴史や環境をめぐる複層的な視点を提示するインドネシア拠点のアーティスト今津景らの作品計79点を購入、收藏した。これにより日本を含むアジアと欧米を横断する国際的な現代美術の動向をより立体的に示すことが可能となる。また女性作家の作品も数多く収集することで、コレクションのジェンダーバランスは正に配慮することができた。

国立国際美術館 美術作品購入一覧（令和7年度）

＝特別予算購入																			
1	<table><tr><td>種別</td><td>洋画</td></tr><tr><td>作者名</td><td>エリザベス・ペイトン(1965-)</td></tr><tr><td>作品名</td><td>ジョナサン（ジョナサン・ホロヴィッツ）</td></tr><tr><td>制作年</td><td>2005年</td></tr><tr><td>材質・形状</td><td>油彩、板</td></tr><tr><td>寸法</td><td>30.3 × 23.3 cm</td></tr><tr><td>解説</td><td>エリザベス・ペイトンは1965年、アメリカのコネチカット州生まれ。1990年代の欧米における、新しい具象絵画の動向を牽引した一人として注目され、現在に至るまで第一線で活躍を続けている。小さな画面に描き出されるその肖像画は、ロックスターや俳優といったセレブリティに対する憧れ、またごく近しいモデルが一瞬垣間見せる儚さや美しさを示唆する。本作品のモデルは、アメリカを拠点に活動するアーティストで、当時二人展を開催するなど、互いに刺激を与え合う友人関係にあった。ペイトンの特徴である瑞々しい透明感あふれる色彩と大胆な筆致が十全に発揮された本作は、日本の美術館での初個展時に、作者自ら展示作品として選出したことでも知られる。本作の收藏によって、国内の美術館においてようやくこの作家の油彩画が所蔵されたことになる。</td></tr><tr><td>取得額</td><td>-</td></tr><tr><td>展示予定</td><td>令和7年度「コレクション3 コレクション・ハイライト」（2026年3月14日～6月14日）にて展示実施</td></tr></table>	種別	洋画	作者名	エリザベス・ペイトン(1965-)	作品名	ジョナサン（ジョナサン・ホロヴィッツ）	制作年	2005年	材質・形状	油彩、板	寸法	30.3 × 23.3 cm	解説	エリザベス・ペイトンは1965年、アメリカのコネチカット州生まれ。1990年代の欧米における、新しい具象絵画の動向を牽引した一人として注目され、現在に至るまで第一線で活躍を続けている。小さな画面に描き出されるその肖像画は、ロックスターや俳優といったセレブリティに対する憧れ、またごく近しいモデルが一瞬垣間見せる儚さや美しさを示唆する。本作品のモデルは、アメリカを拠点に活動するアーティストで、当時二人展を開催するなど、互いに刺激を与え合う友人関係にあった。ペイトンの特徴である瑞々しい透明感あふれる色彩と大胆な筆致が十全に発揮された本作は、日本の美術館での初個展時に、作者自ら展示作品として選出したことでも知られる。本作の收藏によって、国内の美術館においてようやくこの作家の油彩画が所蔵されたことになる。	取得額	-	展示予定	令和7年度「コレクション3 コレクション・ハイライト」（2026年3月14日～6月14日）にて展示実施
種別	洋画																		
作者名	エリザベス・ペイトン(1965-)																		
作品名	ジョナサン（ジョナサン・ホロヴィッツ）																		
制作年	2005年																		
材質・形状	油彩、板																		
寸法	30.3 × 23.3 cm																		
解説	エリザベス・ペイトンは1965年、アメリカのコネチカット州生まれ。1990年代の欧米における、新しい具象絵画の動向を牽引した一人として注目され、現在に至るまで第一線で活躍を続けている。小さな画面に描き出されるその肖像画は、ロックスターや俳優といったセレブリティに対する憧れ、またごく近しいモデルが一瞬垣間見せる儚さや美しさを示唆する。本作品のモデルは、アメリカを拠点に活動するアーティストで、当時二人展を開催するなど、互いに刺激を与え合う友人関係にあった。ペイトンの特徴である瑞々しい透明感あふれる色彩と大胆な筆致が十全に発揮された本作は、日本の美術館での初個展時に、作者自ら展示作品として選出したことでも知られる。本作の收藏によって、国内の美術館においてようやくこの作家の油彩画が所蔵されたことになる。																		
取得額	-																		
展示予定	令和7年度「コレクション3 コレクション・ハイライト」（2026年3月14日～6月14日）にて展示実施																		
2	<table><tr><td>種別</td><td>洋画</td></tr><tr><td>作者名</td><td>アンドロ・ウェクア(1977-)</td></tr><tr><td>作品名</td><td>E.の肖像 プール</td></tr><tr><td>制作年</td><td>2018年</td></tr><tr><td>材質・形状</td><td>油彩、シルクスクリーン、ワニス、アルミ板</td></tr><tr><td>寸法</td><td>125.1 × 85.0 cm</td></tr><tr><td>解説</td><td>1977年、グルジア（現・ジョージア）のスフミに生まれたアンドロ・ウェクアは、祖国における民族紛争を回避するため、1995年にスイスへと移住し、現在はドイツのベルリンを拠点に制作を行っている。2000年代より本格化するウェクアの仕事は、絵画、コラージュ、彫刻、インスタレーション、映像などと幅広いが、それらの根底には、ウェクア個人の記憶と、国家や社会というより大きな文脈との交差ないしは齟齬という主題を見て取ることができる。本作品の核をなすのは、画面上に切り貼りされた思い出の写真、つまり作家の母の肖像だ。だがその写真は、上から絵具が塗り重ねられることで、ただ懐かしむ対象ではなくってしまっだろう。コラージュという、異質な要素同士を接合しつつ断絶する方法は、ウェクアにとって不可欠で、それは東側と西側との融合ないし軋轢といった、彼自身の生い立ちに由来する主題とも無縁ではいられない。</td></tr><tr><td>取得額</td><td>-</td></tr><tr><td>展示予定</td><td>令和9年度開催のコレクション展で展示予定</td></tr></table>	種別	洋画	作者名	アンドロ・ウェクア(1977-)	作品名	E.の肖像 プール	制作年	2018年	材質・形状	油彩、シルクスクリーン、ワニス、アルミ板	寸法	125.1 × 85.0 cm	解説	1977年、グルジア（現・ジョージア）のスフミに生まれたアンドロ・ウェクアは、祖国における民族紛争を回避するため、1995年にスイスへと移住し、現在はドイツのベルリンを拠点に制作を行っている。2000年代より本格化するウェクアの仕事は、絵画、コラージュ、彫刻、インスタレーション、映像などと幅広いが、それらの根底には、ウェクア個人の記憶と、国家や社会というより大きな文脈との交差ないしは齟齬という主題を見て取ることができる。本作品の核をなすのは、画面上に切り貼りされた思い出の写真、つまり作家の母の肖像だ。だがその写真は、上から絵具が塗り重ねられることで、ただ懐かしむ対象ではなくってしまっだろう。コラージュという、異質な要素同士を接合しつつ断絶する方法は、ウェクアにとって不可欠で、それは東側と西側との融合ないし軋轢といった、彼自身の生い立ちに由来する主題とも無縁ではいられない。	取得額	-	展示予定	令和9年度開催のコレクション展で展示予定
種別	洋画																		
作者名	アンドロ・ウェクア(1977-)																		
作品名	E.の肖像 プール																		
制作年	2018年																		
材質・形状	油彩、シルクスクリーン、ワニス、アルミ板																		
寸法	125.1 × 85.0 cm																		
解説	1977年、グルジア（現・ジョージア）のスフミに生まれたアンドロ・ウェクアは、祖国における民族紛争を回避するため、1995年にスイスへと移住し、現在はドイツのベルリンを拠点に制作を行っている。2000年代より本格化するウェクアの仕事は、絵画、コラージュ、彫刻、インスタレーション、映像などと幅広いが、それらの根底には、ウェクア個人の記憶と、国家や社会というより大きな文脈との交差ないしは齟齬という主題を見て取ることができる。本作品の核をなすのは、画面上に切り貼りされた思い出の写真、つまり作家の母の肖像だ。だがその写真は、上から絵具が塗り重ねられることで、ただ懐かしむ対象ではなくってしまっだろう。コラージュという、異質な要素同士を接合しつつ断絶する方法は、ウェクアにとって不可欠で、それは東側と西側との融合ないし軋轢といった、彼自身の生い立ちに由来する主題とも無縁ではいられない。																		
取得額	-																		
展示予定	令和9年度開催のコレクション展で展示予定																		
3	<table><tr><td>種別</td><td>洋画</td></tr><tr><td>作者名</td><td>アンドロ・ウェクア(1977-)</td></tr><tr><td>作品名</td><td>夕方</td></tr><tr><td>制作年</td><td>2018-22年</td></tr><tr><td>材質・形状</td><td>油彩、木、シルクスクリーン、鉛筆、インク、ワニス、アルミ板</td></tr><tr><td>寸法</td><td>125.0 × 84.6 cm</td></tr><tr><td>解説</td><td>1977年、グルジア（現・ジョージア）のスフミに生まれたアンドロ・ウェクアは、祖国における民族紛争を回避するため、1995年にスイスへと移住し、現在はドイツのベルリンを拠点に制作を行っている。2000年代より本格化するウェクアの仕事は、絵画、コラージュ、彫刻、インスタレーション、映像などと幅広いが、それらの根底には、ウェクア個人の記憶と、国家や社会というより大きな文脈との交差ないしは齟齬という主題を見て取ることができる。本作品の核をなすのは、画面上に切り貼りされた思い出の写真、つまり祖国ジョージアの景色の断片だ。だがその写真は、上から絵具が塗り重ねられることで、ただ懐かしむ対象ではなくってしまっだろう。コラージュという、異質な要素同士を接合しつつ断絶する方法は、ウェクアにとって不可欠で、それは東側と西側との融合ないし軋轢といった、彼自身の生い立ちに由来する主題とも無縁ではない。</td></tr><tr><td>取得額</td><td>-</td></tr><tr><td>展示予定</td><td>令和9年度開催のコレクション展で展示予定</td></tr></table>	種別	洋画	作者名	アンドロ・ウェクア(1977-)	作品名	夕方	制作年	2018-22年	材質・形状	油彩、木、シルクスクリーン、鉛筆、インク、ワニス、アルミ板	寸法	125.0 × 84.6 cm	解説	1977年、グルジア（現・ジョージア）のスフミに生まれたアンドロ・ウェクアは、祖国における民族紛争を回避するため、1995年にスイスへと移住し、現在はドイツのベルリンを拠点に制作を行っている。2000年代より本格化するウェクアの仕事は、絵画、コラージュ、彫刻、インスタレーション、映像などと幅広いが、それらの根底には、ウェクア個人の記憶と、国家や社会というより大きな文脈との交差ないしは齟齬という主題を見て取ることができる。本作品の核をなすのは、画面上に切り貼りされた思い出の写真、つまり祖国ジョージアの景色の断片だ。だがその写真は、上から絵具が塗り重ねられることで、ただ懐かしむ対象ではなくってしまっだろう。コラージュという、異質な要素同士を接合しつつ断絶する方法は、ウェクアにとって不可欠で、それは東側と西側との融合ないし軋轢といった、彼自身の生い立ちに由来する主題とも無縁ではない。	取得額	-	展示予定	令和9年度開催のコレクション展で展示予定
種別	洋画																		
作者名	アンドロ・ウェクア(1977-)																		
作品名	夕方																		
制作年	2018-22年																		
材質・形状	油彩、木、シルクスクリーン、鉛筆、インク、ワニス、アルミ板																		
寸法	125.0 × 84.6 cm																		
解説	1977年、グルジア（現・ジョージア）のスフミに生まれたアンドロ・ウェクアは、祖国における民族紛争を回避するため、1995年にスイスへと移住し、現在はドイツのベルリンを拠点に制作を行っている。2000年代より本格化するウェクアの仕事は、絵画、コラージュ、彫刻、インスタレーション、映像などと幅広いが、それらの根底には、ウェクア個人の記憶と、国家や社会というより大きな文脈との交差ないしは齟齬という主題を見て取ることができる。本作品の核をなすのは、画面上に切り貼りされた思い出の写真、つまり祖国ジョージアの景色の断片だ。だがその写真は、上から絵具が塗り重ねられることで、ただ懐かしむ対象ではなくってしまっだろう。コラージュという、異質な要素同士を接合しつつ断絶する方法は、ウェクアにとって不可欠で、それは東側と西側との融合ないし軋轢といった、彼自身の生い立ちに由来する主題とも無縁ではない。																		
取得額	-																		
展示予定	令和9年度開催のコレクション展で展示予定																		
4	<table><tr><td>種別</td><td>彫刻</td></tr><tr><td>作者名</td><td>アンドロ・ウェクア(1977-)</td></tr><tr><td>作品名</td><td>タイトル未定（家）</td></tr><tr><td>制作年</td><td>2012年</td></tr><tr><td>材質・形状</td><td>アクリルブラスター、木、スチール、石膏ファイバーボード、アクリル絵具</td></tr><tr><td>寸法</td><td>33.5 × 40.0 × 41.3 cm</td></tr><tr><td>解説</td><td>1977年、グルジア（現・ジョージア）のスフミに生まれたアンドロ・ウェクアは、祖国における民族紛争を回避するため、1995年にスイスへと移住し、現在はドイツのベルリンを拠点に制作を行っている。2000年代より本格化するウェクアの仕事は、絵画、コラージュ、彫刻、インスタレーション、映像などと幅広いが、それらの根底には、ウェクア個人の記憶と、国家や社会というより大きな文脈との交差ないしは齟齬という主題を見て取ることができる。本作品は、幼少期に住んでいた家を再構築したものであるが、おぼろげな記憶を頼りにしているため必ずしも正確ではなく、また用いられる色も再現的ではない。旧共産圏に由来する本作品は、非欧米圏の現代美術とはまた別の仕方で、美術の西洋中心主義を相対化してくれるだろう。</td></tr><tr><td>取得額</td><td>-</td></tr><tr><td>展示予定</td><td>令和9年度開催のコレクション展で展示予定</td></tr></table>	種別	彫刻	作者名	アンドロ・ウェクア(1977-)	作品名	タイトル未定（家）	制作年	2012年	材質・形状	アクリルブラスター、木、スチール、石膏ファイバーボード、アクリル絵具	寸法	33.5 × 40.0 × 41.3 cm	解説	1977年、グルジア（現・ジョージア）のスフミに生まれたアンドロ・ウェクアは、祖国における民族紛争を回避するため、1995年にスイスへと移住し、現在はドイツのベルリンを拠点に制作を行っている。2000年代より本格化するウェクアの仕事は、絵画、コラージュ、彫刻、インスタレーション、映像などと幅広いが、それらの根底には、ウェクア個人の記憶と、国家や社会というより大きな文脈との交差ないしは齟齬という主題を見て取ることができる。本作品は、幼少期に住んでいた家を再構築したものであるが、おぼろげな記憶を頼りにしているため必ずしも正確ではなく、また用いられる色も再現的ではない。旧共産圏に由来する本作品は、非欧米圏の現代美術とはまた別の仕方で、美術の西洋中心主義を相対化してくれるだろう。	取得額	-	展示予定	令和9年度開催のコレクション展で展示予定
種別	彫刻																		
作者名	アンドロ・ウェクア(1977-)																		
作品名	タイトル未定（家）																		
制作年	2012年																		
材質・形状	アクリルブラスター、木、スチール、石膏ファイバーボード、アクリル絵具																		
寸法	33.5 × 40.0 × 41.3 cm																		
解説	1977年、グルジア（現・ジョージア）のスフミに生まれたアンドロ・ウェクアは、祖国における民族紛争を回避するため、1995年にスイスへと移住し、現在はドイツのベルリンを拠点に制作を行っている。2000年代より本格化するウェクアの仕事は、絵画、コラージュ、彫刻、インスタレーション、映像などと幅広いが、それらの根底には、ウェクア個人の記憶と、国家や社会というより大きな文脈との交差ないしは齟齬という主題を見て取ることができる。本作品は、幼少期に住んでいた家を再構築したものであるが、おぼろげな記憶を頼りにしているため必ずしも正確ではなく、また用いられる色も再現的ではない。旧共産圏に由来する本作品は、非欧米圏の現代美術とはまた別の仕方で、美術の西洋中心主義を相対化してくれるだろう。																		
取得額	-																		
展示予定	令和9年度開催のコレクション展で展示予定																		

5		種別	映像
		作者名	ツァオ・フェイ (1978-)
		作品名	新星
		制作年	2019年
		材質・形状	シングルチャンネル・ビデオ (HD、カラー、サウンド)
6		寸法	97分13秒Ed. 5/9
		解説	ツァオ・フェイは1978年中国・広州市生まれ。広州美術学院在学中、当時珍しかったデジタル・ビデオを用いた作品を手がけ注目を集める。以降、映像作品を中心としながらも最新のテクノロジーをいち早く取り入れ、都市空間やコミュニティの関係を問う作品を発表。現在40代半ばながら、中国現代美術を代表する存在である。本作品は、中国にある架空の都市「新星」を舞台にした、約1時間半にわたる長編の映像作品。人間を電子データに変換しようとする若き研究者の父親と、実験台とされ、サイバー空間を彷徨うこととなった息子の物語を通して、共同体の夢と現実、親子の愛情や世代間格差といったテーマが浮かび上がる。ツァオ・フェイは東アジア地域における、映像表現の同時代性を考えるうえで欠かせない作家であり、コレクションとして収蔵・展示する意義が大きい。
		取得額	-
		展示予定	令和9年度開催のコレクション展で展示予定
7		種別	写真
		作者名	ツァオ・フェイ (1978-)
		作品名	新星03
		制作年	2019/25年
		材質・形状	インクジェット・プリント
8		寸法	104.3 × 149.8 cmEd. 3/7
		解説	ツァオ・フェイは1978年中国・広州市生まれ。広州美術学院在学中、当時珍しかったデジタル・ビデオを用いた作品を手がけ注目を集める。以降、映像作品を中心としながらも最新のテクノロジーをいち早く取り入れ、都市空間やコミュニティの関係を問う作品を発表。現在40代半ばながら、中国現代美術を代表する存在である。本作品は、中国にある架空の都市を舞台にした、約1時間半にわたる長編の映像作品《新星》から派生した写真作品である。《新星》の物語における重要な場面のハイライトとなっており、映像と組み合わせて空間に世界観を拡張できるとともに、写真のみでの展示も可能である。ツァオ・フェイは東アジア地域における、映像表現の同時代性を考えるうえで欠かせない作家であり、コレクションとして収蔵・展示する意義が大きい。
		取得額	-
		展示予定	令和9年度開催のコレクション展で展示予定
9		種別	写真
		作者名	ツァオ・フェイ (1978-)
		作品名	新星04
		制作年	2019/25年
		材質・形状	インクジェット・プリント
10		寸法	89.0 × 149.5 cmEd. 3/7
		解説	ツァオ・フェイは1978年中国・広州市生まれ。広州美術学院在学中、当時珍しかったデジタル・ビデオを用いた作品を手がけ注目を集める。以降、映像作品を中心としながらも最新のテクノロジーをいち早く取り入れ、都市空間やコミュニティの関係を問う作品を発表。現在40代半ばながら、中国現代美術を代表する存在である。本作品は、中国にある架空の都市を舞台にした、約1時間半にわたる長編の映像作品《新星》から派生した写真作品である。《新星》の物語における重要な場面のハイライトとなっており、映像と組み合わせて空間に世界観を拡張できるとともに、写真のみでの展示も可能である。ツァオ・フェイは東アジア地域における、映像表現の同時代性を考えるうえで欠かせない作家であり、コレクションとして収蔵・展示する意義が大きい。
		取得額	-
		展示予定	令和9年度開催のコレクション展で展示予定
11		種別	写真
		作者名	ツァオ・フェイ (1978-)
		作品名	新星05
		制作年	2019/21年
		材質・形状	インクジェット・プリント
12		寸法	99.1 × 174.1 cmEd. 2/7
		解説	ツァオ・フェイは1978年中国・広州市生まれ。広州美術学院在学中、当時珍しかったデジタル・ビデオを用いた作品を手がけ注目を集める。以降、映像作品を中心としながらも最新のテクノロジーをいち早く取り入れ、都市空間やコミュニティの関係を問う作品を発表。現在40代半ばながら、中国現代美術を代表する存在である。本作品は、中国にある架空の都市を舞台にした、約1時間半にわたる長編の映像作品《新星》から派生した写真作品である。《新星》の物語における重要な場面のハイライトとなっており、映像と組み合わせて空間に世界観を拡張できるとともに、写真のみでの展示も可能である。ツァオ・フェイは東アジア地域における、映像表現の同時代性を考えるうえで欠かせない作家であり、コレクションとして収蔵・展示する意義が大きい。
		取得額	-
		展示予定	令和9年度開催のコレクション展で展示予定
13		種別	写真
		作者名	ツァオ・フェイ (1978-)
		作品名	新星11
		制作年	2019/21年
		材質・形状	インクジェット・プリント
14		寸法	109.3 × 149.3 cmEd. 2/7
		解説	ツァオ・フェイは1978年中国・広州市生まれ。広州美術学院在学中、当時珍しかったデジタル・ビデオを用いた作品を手がけ注目を集める。以降、映像作品を中心としながらも最新のテクノロジーをいち早く取り入れ、都市空間やコミュニティの関係を問う作品を発表。現在40代半ばながら、中国現代美術を代表する存在である。本作品は、中国にある架空の都市を舞台にした、約1時間半にわたる長編の映像作品《新星》から派生した写真作品である。《新星》の物語における重要な場面のハイライトとなっており、映像と組み合わせて空間に世界観を拡張できるとともに、写真のみでの展示も可能である。ツァオ・フェイは東アジア地域における、映像表現の同時代性を考えるうえで欠かせない作家であり、コレクションとして収蔵・展示する意義が大きい。
		取得額	-
		展示予定	令和9年度開催のコレクション展で展示予定

10	★	種別：写真 作者名：ツァオ・フェイ (1978-) 作品名：新星12 制作年：2019/25年 材質・形状：インクジェット・プリント 寸法：99.2 × 140.0 cmEd. 3/7 解説：ツァオ・フェイは1978年中国・広州市生まれ。広州美術学院在学中、当時珍しかったデジタル・ビデオを用いた作品を手がけ注目を集める。以降、映像作品を中心としながらも最新のテクノロジーをいち早く取り入れ、都市空間やコミュニティの関係を問う作品を発表。現在40代半ばながら、中国現代美術を代表する存在である。本作品は、中国にある架空の都市を舞台にした、約1時間半にわたる長編の映像作品《新星》から派生した写真作品である。《新星》の物語における重要な場面のハイライトとなっており、映像と組み合わせて空間に世界観を拡張できるとともに、写真のみでの展示も可能である。ツァオ・フェイは東アジア地域における、映像表現の同時代性を考えるうえで欠かせない作家であり、コレクションとして収蔵・展示する意義が大きい。 取得額：－ 展示予定：令和9年度開催のコレクション展で展示予定
11	★	種別：写真 作者名：ツァオ・フェイ (1978-) 作品名：新星13 制作年：2019/25年 材質・形状：インクジェット・プリント 寸法：109.1 × 149.1 cmEd. 3/7 解説：ツァオ・フェイは1978年中国・広州市生まれ。広州美術学院在学中、当時珍しかったデジタル・ビデオを用いた作品を手がけ注目を集める。以降、映像作品を中心としながらも最新のテクノロジーをいち早く取り入れ、都市空間やコミュニティの関係を問う作品を発表。現在40代半ばながら、中国現代美術を代表する存在である。本作品は、中国にある架空の都市を舞台にした、約1時間半にわたる長編の映像作品《新星》から派生した写真作品である。《新星》の物語における重要な場面のハイライトとなっており、映像と組み合わせて空間に世界観を拡張できるとともに、写真のみでの展示も可能である。ツァオ・フェイは東アジア地域における、映像表現の同時代性を考えるうえで欠かせない作家であり、コレクションとして収蔵・展示する意義が大きい。 取得額：－ 展示予定：令和9年度開催のコレクション展で展示予定
12	★	種別：写真 作者名：ツァオ・フェイ (1978-) 作品名：新星15 制作年：2019/21年 材質・形状：インクジェット・プリント 寸法：110.0 × 150.0 cmEd. 3/7 解説：ツァオ・フェイは1978年中国・広州市生まれ。広州美術学院在学中、当時珍しかったデジタル・ビデオを用いた作品を手がけ注目を集める。以降、映像作品を中心としながらも最新のテクノロジーをいち早く取り入れ、都市空間やコミュニティの関係を問う作品を発表。現在40代半ばながら、中国現代美術を代表する存在である。本作品は、中国にある架空の都市を舞台にした、約1時間半にわたる長編の映像作品《新星》から派生した写真作品である。《新星》の物語における重要な場面のハイライトとなっており、映像と組み合わせて空間に世界観を拡張できるとともに、写真のみでの展示も可能である。ツァオ・フェイは東アジア地域における、映像表現の同時代性を考えるうえで欠かせない作家であり、コレクションとして収蔵・展示する意義が大きい。 取得額：－ 展示予定：令和9年度開催のコレクション展で展示予定
13	★	種別：写真 作者名：ツァオ・フェイ (1978-) 作品名：新星18 制作年：2019/21年 材質・形状：インクジェット・プリント 寸法：109.2 × 149.2 cmEd. 3/7 解説：ツァオ・フェイは1978年中国・広州市生まれ。広州美術学院在学中、当時珍しかったデジタル・ビデオを用いた作品を手がけ注目を集める。以降、映像作品を中心としながらも最新のテクノロジーをいち早く取り入れ、都市空間やコミュニティの関係を問う作品を発表。現在40代半ばながら、中国現代美術を代表する存在である。本作品は、中国にある架空の都市を舞台にした、約1時間半にわたる長編の映像作品《新星》から派生した写真作品である。《新星》の物語における重要な場面のハイライトとなっており、映像と組み合わせて空間に世界観を拡張できるとともに、写真のみでの展示も可能である。ツァオ・フェイは東アジア地域における、映像表現の同時代性を考えるうえで欠かせない作家であり、コレクションとして収蔵・展示する意義が大きい。 取得額：－ 展示予定：令和9年度開催のコレクション展で展示予定
14	★	種別：映像 作者名：ツァオ・フェイ (1978-) 作品名：マトリョーシカ・パース 制作年：2022年 材質・形状：2チャンネル・ビデオ (HD、カラー、サウンド) 寸法：37分38秒Ed. 3/6 + 2 A.P. 解説：ツァオ・フェイは1978年中国・広州市生まれ。本作は、中国・内モンゴル自治区に位置するロシアとの国境の町「満洲里」のリサーチに基づくセミ・ドキュメンタリー作品である。満洲里には20世紀初めに鉄道敷設に伴って駅がつくられ、中国とロシアとの貿易拠点となり栄えた。かつて「満洲国」の北西端として日本の影響下にあったこともある。映像では、観光名所であるロシア風建造物やモンゴル民族の暮らす広大な草原地帯など、文化と民族が混雑する土地の特性が映し出される。案内人となるのは揃いの真っ青な上着を着た若者たちで、彼らの服装は《新星》（2019年）に登場する研究者たちの服装と同じである。時としてバーチャル空間も出現し、フィクションと現実、過去と現在の溶け合う世界が展開する。東アジア地域における、映像表現の同時代性を考えるうえで欠かせない作家であるツァオ・フェイによる近年の意欲作である。 取得額：－ 展示予定：令和8年度「コトバの重なる場所」（2026年12月1日～2027年3月14日）にて展示予定

15		種別	写真
		作者名	ツァオ・フェイ(1978-)
		作品名	マトリョーシカ・パース01
		制作年	2022/23年
		材質・形状	インクジェット・プリント
16		寸法	104.4 × 156.3 cmEd. 1/6 + 2 A.P.
		解説	ツァオ・フェイは1978年中国・広州市生まれ。本作は、中国・内モンゴル自治区に位置するロシアとの国境の町「満洲里」のリサーチに基づく映像作品《マトリョーシカ・パース》（2022）から派生した写真作品である。満洲里には20世紀初めに鉄道敷設に伴って駅がつくれ、中国とロシアとの貿易拠点となり栄えた。写真作品では、広大な草原地帯を背景に、鉄道の名残やロシア風建造物、遊牧民のゲルなど、民族と文化が混濁する土地の歴史を反映するような風景が広がる。映像にも登場する揃いの真っ青な上着を着た若者たちは、《新星》（2019年）に登場する研究者たちの服装と同じであり、フィクションと現実、過去と現在の溶け合う世界が展開する。東アジア地域における、映像表現の同時代性を考えるうえで欠かせない作家であるツァオ・フェイによる近年の意欲作である。
		取得額	-
		展示予定	令和7年度「コレクション2 21世紀の想像力」（2025年11月1日～2026年2月15日）にて展示実施
17		種別	写真
		作者名	ツァオ・フェイ(1978-)
		作品名	マトリョーシカ・パース04
		制作年	2022/23年
		材質・形状	インクジェット・プリント
18		寸法	104.4 × 156.3 cmEd. 1/6 + 2 A.P.
		解説	ツァオ・フェイは1978年中国・広州市生まれ。本作は、中国・内モンゴル自治区に位置するロシアとの国境の町「満洲里」のリサーチに基づく映像作品《マトリョーシカ・パース》（2022）から派生した写真作品である。満洲里には20世紀初めに鉄道敷設に伴って駅がつくれ、中国とロシアとの貿易拠点となり栄えた。写真作品では、広大な草原地帯を背景に、鉄道の名残やロシア風建造物、遊牧民のゲルなど、民族と文化が混濁する土地の歴史を反映するような風景が広がる。映像にも登場する揃いの真っ青な上着を着た若者たちは、《新星》（2019年）に登場する研究者たちの服装と同じであり、フィクションと現実、過去と現在の溶け合う世界が展開する。東アジア地域における、映像表現の同時代性を考えるうえで欠かせない作家であるツァオ・フェイによる近年の意欲作である。
		取得額	-
		展示予定	令和7年度「コレクション2 21世紀の想像力」（2025年11月1日～2026年2月15日）にて展示実施
19		種別	写真
		作者名	ツァオ・フェイ(1978-)
		作品名	マトリョーシカ・パース12
		制作年	2022/23年
		材質・形状	インクジェット・プリント
		寸法	104.3 × 156.2 cmEd. 1/6 + 2 A.P.
		解説	ツァオ・フェイは1978年中国・広州市生まれ。本作は、中国・内モンゴル自治区に位置するロシアとの国境の町「満洲里」のリサーチに基づく映像作品《マトリョーシカ・パース》（2022）から派生した写真作品である。満洲里には20世紀初めに鉄道敷設に伴って駅がつくれ、中国とロシアとの貿易拠点となり栄えた。写真作品では、広大な草原地帯を背景に、鉄道の名残やロシア風建造物、遊牧民のゲルなど、民族と文化が混濁する土地の歴史を反映するような風景が広がる。映像にも登場する揃いの真っ青な上着を着た若者たちは、《新星》（2019年）に登場する研究者たちの服装と同じであり、フィクションと現実、過去と現在の溶け合う世界が展開する。東アジア地域における、映像表現の同時代性を考えるうえで欠かせない作家であるツァオ・フェイによる近年の意欲作である。
		取得額	-
		展示予定	令和7年度「コレクション2 21世紀の想像力」（2025年11月1日～2026年2月15日）にて展示実施

	種別	写真
	作者名	ツァオ・フェイ (1978-)
	作品名	マトリョーシカ・パース16
	制作年	2022/23年
	材質・形状	インクジェット・プリント
	寸法	104.4 × 156.3 cmEd. 1/6 + 2 A.P.
	解説	ツァオ・フェイは1978年中国・広州市生まれ。本作は、中国・内モンゴル自治区に位置するロシアとの国境の町「満洲里」のリサーチに基づく映像作品《マトリョーシカ・パース》（2022）から派生した写真作品である。満洲里には20世紀初めに鉄道敷設に伴って駅がつくられ、中国とロシアとの貿易拠点となり栄えた。写真作品では、広大な草原地帯を背景に、鉄道の名残やロシア風建造物、遊牧民のゲルなど、民族と文化が混濁する土地の歴史を反映するような風景が広がる。映像にも登場する揃いの真っ青な上着を着た若者たちは、《新星》（2019年）に登場する研究者たちの服装と同じであり、フィクションと現実、過去と現在の溶け合う世界が展開する。東アジア地域における、映像表現の同時代性を考えるうえで欠かせない作家であるツァオ・フェイによる近年の意欲作である。
	取得額	-
	展示予定	令和7年度「コレクション2 21世紀の想像力」（2025年11月1日～2026年2月15日）にて展示実施
	21	種別
作者名		神山明 (1953-2012)
作品名		僕が空へ行く夜
制作年		1987年
材質・形状		杉、オイルステイン
寸法		187.7 × 190.0 × 55.8 cm
解説		神山明は1953年東京都生まれ。1975年東京藝術大学美術学部工芸科デザイン専攻卒業。1977年同大学大学院美術研究科デザインの基礎造形及び理論専攻を修了。1979年白樺画廊にて初個展。1981年第2回ヘンリー・ムア大賞展佳作賞以降、1987年第18回現代日本美術展佳作賞他、受賞を繰り返す。また、1988年の第8回ハラ・アニュアル展（原美術館）、1990年「作法の遊戯 90年春・美術の現在」（水戸芸術館）等の企画展にもたびたび選ばれる。2012年に亡くなった後、2017年には平塚市美術館において回顧展が開催された。本作は、杉材にオイルステインを塗布する彼の代表的なスタイルによる作品。船の甲板を連想させる天板上に、旗や櫓、三日月などを舞台のように配置し、幻想的でノスタルジックな物語性と、作家自身の内面性を反映させながら、文明のメタファーとも見るべき宇宙的スケールの世界観を提示している。
取得額		1,760,000円
展示予定		令和10年度開催のコレクション展で展示予定
		種別
	作者名	リー・キット (1978-)
	作品名	Bill
	制作年	2014年
	材質・形状	アクリル、エマルジョン塗料、インクジェットインク、合板、タオル
	寸法	サイズ可変
	解説	リー・キットは1978年香港生まれ。台北在住。近年は、絵画やドローイングにプロジェクターの光や映像、テキスト、日用品などを組み合わせた、詩的で繊細なサイトスペシフィック・インスタレーションを手掛ける。作品は、自身を取り巻く環境や個人的な経験に裏打ちされており、怒りや悲しみ、ノスタルジー、不安、孤独といった現代的な感傷が漂う。その背景には、リーが生まれ育った香港だけでなく、私たちの生きる社会に蔓延するさまざまな不条理や困難がある。2013年にはヴェネチア・ビエンナーレの香港館代表を務めるなど、国際的に評価されている。 本作《Bill》は、「By the way.」といいかにもカジュアルに題された個展での中心となったもので、「Bill」と描かれた絵画、タオル掛けと水色のタオル、白く塗られた合板の三つの要素から成る。日用品と絵画を組み合わせたインスタレーションという作家のスタイルをよく表しており、実用品とそうでないもののグラデーションを曖昧にするような仕草を見て取ることができる。同時に、「Bill」（請求書）という言葉があらわすように、自らの作品が市場において値付けされ、金銭のやり取りを伴って取引されるものであることを冷めた態度で表現している。
	取得額	-
	展示予定	令和9年度開催のコレクション展で展示予定
		種別
作者名		リー・キット (1978-)
作品名		Porn
制作年		2025年
材質・形状		スプレー・ペイント、パステル、ステンレス・スチール
寸法		130.0 × 95.0 cm
解説		リー・キットは1978年香港生まれ。台北在住。近年は、絵画やドローイングにプロジェクターの光や映像、テキスト、日用品などを組み合わせた、詩的で繊細なサイトスペシフィック・インスタレーションを手掛ける。作品は、自身を取り巻く環境や個人的な経験に裏打ちされており、怒りや悲しみ、ノスタルジー、不安、孤独といった現代的な感傷が漂う。その背景には、リーが生まれ育った香港だけでなく、私たちの生きる社会に蔓延するさまざまな不条理や困難がある。2013年にはヴェネチア・ビエンナーレの香港館代表を務めるなど、国際的に評価されている。 本作は、2025年に開催した「非常の常」展のために制作した絵画のひとつ。ステンレス・スチールにスプレーペイントで描くという、近年多数手がけているスタイルの作品である。水色を基調とした繊細な色調の画面に「Porn」（ポルノ）と描かれている。絵画は、高尚にも低俗にもなり得る「見たい」という欲望充足のしもべになり得るという、リーらしい皮肉を読み取ることができる。特別展「非常の常」に際して制作・発表した大規模なインスタレーション作品に含まれる3点の作品に加え、これまでに日本で発表された代表的な仕事2点を合わせて収蔵することで、作家像がより立体的なものとなる。
取得額		-
展示予定		令和7年度特別展「非常の常」（2025年6月28日～10月5日）にて展示実施
		種別
	作者名	リー・キット (1978-)
	作品名	A ripple of disgust
	制作年	2025年
	材質・形状	スプレー・ペイント、パステル、ステンレス・スチール
	寸法	150.0 × 110.0 cm
	解説	リー・キットは1978年香港生まれ。台北在住。近年は、絵画やドローイングにプロジェクターの光や映像、テキスト、日用品などを組み合わせた、詩的で繊細なサイトスペシフィック・インスタレーションを手掛ける。作品は、自身を取り巻く環境や個人的な経験に裏打ちされており、怒りや悲しみ、ノスタルジー、不安、孤独といった現代的な感傷が漂う。その背景には、リーが生まれ育った香港だけでなく、私たちの生きる社会に蔓延するさまざまな不条理や困難がある。2013年にはヴェネチア・ビエンナーレの香港館代表を務めるなど、国際的に評価されている。 本作は2025年に開催した「非常の常」展のために制作した作品のひとつ。ステンレス・スチールにスプレーペイントで描くという、近年多数手がけているスタイルの絵画である。水色を基調とした繊細な色調の画面に「A ripple of disgust」（悪意の波紋）と描かれており、涼やかな画面の印象とことばの指し示すところの差異が、奇妙な印象を与える。特別展「非常の常」に際して制作・発表した大規模なインスタレーション作品に含まれる3点の作品に加え、これまでに日本で発表された代表的な仕事2点を合わせて収蔵することで、作家像がより立体的なものとなる。
	取得額	-
	展示予定	令和7年度特別展「非常の常」（2025年6月28日～10月5日）にて展示実施

25		種別	洋画
		作者名	今津景(1980-)
		作品名	WEWE
		制作年	2022年
		材質・形状	油彩、カンバス
		寸法	194.0 × 162.0 cm
26		解説	今津景は、2007年に多摩美術大学大学院を修了後、2009年VOCA展佳作賞、2013年絹谷幸二賞奨励賞を受賞。2018年にはジャカルタでのレジデンスを経てインドネシア・バンドンに拠点を移し、以降国際的に活動を展開している。インターネットやデジタルアーカイブから収集した画像を素材に、自ら加工・構成して下絵を作り、歴史・神話・環境問題・フェミニズムなどを主題に作品を制作。絵画作品のほか立体も手がける。独自の視点と鮮やかな構成力で、国内外で高い評価を得ている。 本作は、ジャワ神話に登場する幽霊Wewe Gombel（ウェウェ・ゴンベル）を描くと同時に、「We＝私たち」を重ね合わせる意味を持つ。画面にはアダムとイヴや蛇、バリ島の羽衣伝説の天女、オランウータン、ジャワ原人の頭蓋骨など、西洋と東洋双方の「人間の起源」を象徴するモチーフが巧みに配されている。これらは作家がインドネシアでの生活を通じて培った多層的な視点を反映しており、文化や神話の交差点としてのアジア的世界観を示す重要な作品である。 2025年に東京オペラシティアートギャラリーで開催された今津の大規模個展でも本作は中心的に展示され、作家にとっての重要作と位置づけられた。
		取得額	-
		展示予定	令和9年度開催のコレクション展で展示予定
		種別	洋画
		作者名	谷澤紗和子(1982-)
		作品名	目の前に開ける明るい新しい道
27		制作年	2025年
		材質・形状	アクリル、紙
		寸法	11点組：300.0 × 370.0 × 70.0 cm
		解説	谷澤紗和子は1982年大阪府生まれ。美術制度の外部に置かれてきた切り紙の手法や、紙や陶といった素材を積極的に用い、想像力を解放する装置としての作品を制作してきた。近年は特に、自身の制作の基盤としてきた切り紙に携わった先達の作品や足跡を追い、マジョリティ中心の社会のなかで抑圧され周縁化されてきた声に着目した作品を発表している。本作は、谷澤が近年調査を進めてきた、切り紙を制作手法としてきた4人の女性の美術家―高村智恵子、メアリー・ディレイニー、庫淑蘭、宮脇綾子―それぞれの造形を引用しながら、谷澤独自の表現を加え構成した11点の切り紙作品によるインスタレーションである。タイトルは、宮脇綾子が1945年の終戦に際し、ようやく制作に着手できる喜びを語った言葉に由来する。和紙を切り抜き、彩色し、また重ね貼る複雑な工程を経て作られており、表裏両面から鑑賞可能な、軽やかかつスケールの大きな作品である。
		取得額	-
		展示予定	令和8年度、特別展「プラカードのために」の巡回展（熊本市現代美術館）で展示予定
28		種別	彫刻
		作者名	福田尚代(1967-)
		作品名	巡礼／名刺
		制作年	2008-10年
		材質・形状	名刺に刺繍
		寸法	各4.6 × 8.9 cm ～ 5.5 × 9.1 cm（99点組）
29		解説	1967年、埼玉県浦和市に生まれ、東京藝術大学の油画科で学んだ福田尚代は、文字を起点に作品を手がけることで知られている。その制作の根底にあるのは、幼少期に耽溺した読書と点描だった。微小な文字を点描に重ね合わせ、絵画と彫刻とのあいだを行き来する彼女の実践は、本や手紙や漫画、また原稿用紙や消しゴムや葉を素材にして展開される。本作品は、いつか、どこかで受け取った誰かの名刺に刺繍を施すことで生まれる。2000年代の後半から積極的に取り組まれるようになる、刺繍という実践をとおして、福田は、壊すことに作ることを重ねてみせた。つまり文字を覆い隠し、読めなくする微小な糸の粒たちは、名刺から意味＝個人情報をはぎ取り、代わりにそれらを、もっばら見られるべき作品へと変える。文字を点（描）に置きなおすその試みは、彼女の幼少期にまで遡られる、根本問題の一つだと言ってよい。
		取得額	-
		展示予定	令和9年度開催のコレクション展で展示予定
		種別	写真
		作者名	ユキ・キハラ(1975-)
		作品名	Two Fa'afafine (after Gauguin)
29		制作年	2020/25年
		材質・形状	発色現像方式印画、アクリルにマウント
		寸法	94.0 × 72.0 cm Ed. 6/9
		解説	ユキ・キハラは1975年サモアのアピア生まれ。日本とサモアにルーツを持つ。綿密なりサーチに基づき、映像、写真、立体、パフォーマンス、インスタレーションなど領域横断的な活動を行う。脱植民地化と文化的アイデンティティ、歴史の読み直しを主題に、植民地主義やオリエンタリズム、美術史をクィアの視点から問い直す作品で知られる。「ファアフアフィネ」と呼ばれる、サモア文化特有の第三のジェンダーのコミュニティで育ったキハラにとって、ジェンダーやセクシュアリティをめぐる差別的構造への批評も重要なテーマである。 本作は、第59回ヴェネチア・ビエンナーレのニューージーランド館での個展「Paradise Camp」において発表され、高く評価されたシリーズの一点で、ポール・ゴーギャンによって作られたポリネシア地域のステレオタイプなイメージを、先住民の視点から批評的に問い直す。ゴーギャンの《二人のタヒチの女性》（1899年）をもとにする本作は、絵画中のタヒチの女性たちをサモアのファアフアフィネが演じることで、植民地主義的なまなざしを転倒させている。ゴーギャン作品において受動的な存在として描かれてきたモデルは、鑑賞者／作者に強い視線を返す主体として表されている。
		取得額	-
		展示予定	令和9年度開催のコレクション展で展示予定
29		種別	写真
		作者名	ユキ・キハラ(1975-)
		作品名	Nafea e te Fa'aipoipo? When Will You Marry? (after Gauguin)
		制作年	2020/25年
		材質・形状	発色現像方式印画、アクリルにマウント
		寸法	101.0 × 77.0 cm Ed. 4/9
29		解説	ユキ・キハラは1975年サモアのアピア生まれ。日本とサモアにルーツを持つ。綿密なりサーチに基づき、映像、写真、立体、パフォーマンス、インスタレーションなど領域横断的な活動を行う。脱植民地化と文化的アイデンティティ、歴史の読み直しを主題に、植民地主義やオリエンタリズム、美術史をクィアの視点から問い直す作品で知られる。「ファアフアフィネ」と呼ばれる、サモア文化特有の第三のジェンダーのコミュニティで育ったキハラにとって、ジェンダーやセクシュアリティをめぐる差別的構造への批評も重要なテーマである。 本作は、第59回ヴェネチア・ビエンナーレのニューージーランド館での個展「Paradise Camp」において発表され、高く評価されたシリーズの一点で、ポール・ゴーギャンによって作られたポリネシア地域のステレオタイプなイメージを、先住民の視点から批評的に問い直す。ゴーギャンの《いつ結婚するの》（1899年）をもとにする本作は、絵画中のタヒチの女性たちをサモアのファアフアフィネが演じることで、植民地主義的なまなざしを転倒させている。ゴーギャン作品において受動的な存在として描かれてきたモデルは、鑑賞者／作者に強い視線を返す主体として表されている。
		取得額	-
		展示予定	令和9年度開催のコレクション展で展示予定
		種別	写真
		作者名	ユキ・キハラ(1975-)
		作品名	Nafea e te Fa'aipoipo? When Will You Marry? (after Gauguin)

30		種別	写真
		作者名	ユキ・キハラ(1975-)
		作品名	Spirit of the Ancestors Watching (after Gauguin)
		制作年	2020/25年
		材質・形状	発色現像方式印画、アクリルにマウント
		寸法	116.0 × 134.6 cm Ed. 2/9
		解説	ユキ・キハラは1975年サモアのアピア生まれ。日本とサモアにルーツを持つ。綿密なリサーチに基づき、映像、写真、立体、パフォーマンス、インスタレーションなど領域横断的な活動を行う。脱植民地化と文化的アイデンティティ、歴史の読み直しを主題に、植民地主義やオリエンタリズム、美術史をクイアの視点から問い直す作品で知られる。「ファアフアフィネ」と呼ばれる、サモア文化特有の第三のジェンダーのコミュニティで育ったキハラにとって、ジェンダーやセクシュアリティをめぐる差別的構造への批評も重要なテーマである。 本作は、第59回ヴェネチア・ビエンナーレのニュージーランド館での個展「Paradise Camp」において発表され、高く評価されたシリーズの一点で、ポール・ゴーギャンによって作られたポリネシア地域のステレオタイプなイメージを、先住民の視点から批評的に問い直す。ゴーギャンの《マナオ・トゥパバウ（死霊が見ている）》（1892年）をもとにする本作は、絵画中のタヒチの女性をサモアのファアフアフィネが演じることで、植民地主義的なまなざしを転倒させている。ゴーギャン作品において受動的な存在として描かれてきたモデルは、鑑賞者／作者に強い視線を返す主体として表されている。
		取得額	-
		展示予定	令和9年度開催のコレクション展で展示予定
31		種別	写真
		作者名	ユキ・キハラ(1975-)
		作品名	Three Fa'afafine (after Gauguin)
		制作年	2020/25年
		材質・形状	発色現像方式印画、アクリルにマウント
		寸法	73.0 × 94.0 cm Ed. 3/9
		解説	ユキ・キハラは1975年サモアのアピア生まれ。日本とサモアにルーツを持つ。綿密なリサーチに基づき、映像、写真、立体、パフォーマンス、インスタレーションなど領域横断的な活動を行う。脱植民地化と文化的アイデンティティ、歴史の読み直しを主題に、植民地主義やオリエンタリズム、美術史をクイアの視点から問い直す作品で知られる。「ファアフアフィネ」と呼ばれる、サモア文化特有の第三のジェンダーのコミュニティで育ったキハラにとって、ジェンダーやセクシュアリティをめぐる差別的構造への批評も重要なテーマである。 本作は、第59回ヴェネチア・ビエンナーレのニュージーランド館での個展「Paradise Camp」において発表され、高く評価されたシリーズの一点で、ポール・ゴーギャンによって作られたポリネシア地域のステレオタイプなイメージを、先住民の視点から批評的に問い直す。ゴーギャンの《三人のタヒチ人》（1899年）をもとにする本作は、絵画中のタヒチの人物をサモアのファアフアフィネらが演じることで、植民地主義的なまなざしを転倒させている。ゴーギャン作品において受動的な存在として描かれてきたモデルは、鑑賞者／作者に強い視線を返す主体として表されている。
		取得額	-
		展示予定	令和9年度開催のコレクション展で展示予定
32		種別	写真
		作者名	ユキ・キハラ(1975-)
		作品名	Paul Gauguin with a Hat (after Gauguin)
		制作年	2020/25年
		材質・形状	発色現像方式印画、アクリルにマウント
		寸法	45.0 × 38.0 cm Ed. 2/9
		解説	ユキ・キハラは1975年サモアのアピア生まれ。日本とサモアにルーツを持つ。綿密なリサーチに基づき、映像、写真、立体、パフォーマンス、インスタレーションなど領域横断的な活動を行う。脱植民地化と文化的アイデンティティ、歴史の読み直しを主題に、植民地主義やオリエンタリズム、美術史をクイアの視点から問い直す作品で知られる。「ファアフアフィネ」と呼ばれる、サモア文化特有の第三のジェンダーのコミュニティで育ったキハラにとって、ジェンダーやセクシュアリティをめぐる差別的構造への批評も重要なテーマである。 本作は、第59回ヴェネチア・ビエンナーレのニュージーランド館での個展「Paradise Camp」において発表され、高く評価されたシリーズの一点で、ポール・ゴーギャンによって作られたポリネシア地域のステレオタイプなイメージを、先住民の視点から批評的に問い直す。ゴーギャンの自画像《帽子をかぶった自画像》（1893-94年）をもとにする本作は、キハラ自身が扮装し、ゴーギャンを演じることで植民地主義的なまなざしを攪乱する。
		取得額	-
		展示予定	令和9年度開催のコレクション展で展示予定
33		種別	写真
		作者名	ムン・キョンウォン&チョン・ジュン(1969-/1969-)
		作品名	フリーダム・ヴィレッジ 自由の村の標識
		制作年	2017-21/25年
		材質・形状	デジタルプリント
		寸法	140.0 × 120.0 cm Ed. 2/8 + 2 A.P.
		解説	ムン・キョンウォンとチョン・ジュンはともに1969年生まれ。2009年より「News from Nowhere」と題したプロジェクトを共同で開始。ウィリアム・モリスによる、22世紀の未来を描いた同名の小説から着想を得て、さまざまな専門家たちと協働し、芸術の社会的役割について考察することを目的とする。2015年にはヴェネチア・ビエンナーレの韓国館代表に選出され、2021年には金沢21世紀美術館で大規模な個展が開催された。 本写真シリーズは、韓国と北朝鮮の間の非武装地帯内に位置する韓国側唯一の民間人居住区域である、「自由の村（フリーダム・ヴィレッジ）」と呼ばれる村のリサーチを元にした作品。韓国の国立公文書館から入手した村の古い写真と文章の組み合わせによって、この特異な村の実相を伝えることが試みられる。ただし写真や文章には時代錯誤的な修正や、作家の想像した状況が巧妙に加えられており、現実と虚構、事実と捏造の境は曖昧である。朝鮮戦争による分断が生み落とした象徴的な存在である村をテーマにした本作は、朝鮮半島の近現代史、朝鮮戦争を背景に戦後復興を遂げた日本の過去を照射するものとしても意義深い。
		取得額	-
		展示予定	令和8年度「コトバの重なる場所」（2026年12月1日～2027年3月14日）にて展示予定
34		種別	写真
		作者名	ムン・キョンウォン&チョン・ジュン(1969-/1969-)
		作品名	フリーダム・ヴィレッジ 村の公民館
		制作年	2017-21/25年
		材質・形状	デジタルプリント
		寸法	140.0 × 120.0 cm Ed. 2/8 + 2 A.P.
		解説	ムン・キョンウォンとチョン・ジュンはともに1969年生まれ。2009年より「News from Nowhere」と題したプロジェクトを共同で開始。ウィリアム・モリスによる、22世紀の未来を描いた同名の小説から着想を得て、さまざまな専門家たちと協働し、芸術の社会的役割について考察することを目的とする。2015年にはヴェネチア・ビエンナーレの韓国館代表に選出され、2021年には金沢21世紀美術館で大規模な個展が開催された。 本写真シリーズは、韓国と北朝鮮の間の非武装地帯内に位置する韓国側唯一の民間人居住区域である、「自由の村（フリーダム・ヴィレッジ）」と呼ばれる村のリサーチを元にした作品。韓国の国立公文書館から入手した村の古い写真と文章の組み合わせによって、この特異な村の実相を伝えることが試みられる。ただし写真や文章には時代錯誤的な修正や、作家の想像した状況が巧妙に加えられており、現実と虚構、事実と捏造の境は曖昧である。朝鮮戦争による分断が生み落とした象徴的な存在である村をテーマにした本作は、朝鮮半島の近現代史、朝鮮戦争を背景に戦後復興を遂げた日本の過去を照射するものとしても意義深い。
		取得額	-
		展示予定	令和8年度「コトバの重なる場所」（2026年12月1日～2027年3月14日）にて展示予定

35 	種別	写真
	作者名	ムン・キョンウォン&チョン・ジュン(1969~/1969~)
	作品名	フリーダム・ヴィレッジ 予防接種
	制作年	2017-21/25年
	材質・形状	デジタルプリント
	寸法	140.0 × 120.0 cm Ed. 2/8 + 2 A.P.
	解説	ムン・キョンウォンとチョン・ジュンはともに1969年生まれ。2009年より「News from Nowhere」と題したプロジェクトを共同で開始。ウィリアム・モリスによる、22世紀の未来を描いた同名の小説から着想を得て、さまざまな専門家たちと協働し、芸術の社会的役割について考察することを目的とする。2015年にはヴェネチア・ビエンナーレの韓国館代表に選出され、2021年には金沢21世紀美術館で大規模な個展が開催された。 本写真シリーズは、韓国と北朝鮮の間の非武装地帯内に位置する韓国側唯一の民間人居住区域である、「自由の村（フリーダム・ヴィレッジ）」と呼ばれる村のリサーチを元にした作品。韓国の国立公文書館から入手した村の古い写真と文章の組み合わせによって、この特異な村の実相を伝えることが試みられる。ただし写真や文章には時代錯誤的な修正や、作家の想像した状況が巧妙に加えられており、現実と虚構、事実と捏造の境は曖昧である。朝鮮戦争による分断が生み落とした象徴的な存在である村をテーマにした本作は、朝鮮半島の近現代史、朝鮮戦争を背景に戦後復興を遂げた日本の過去を照射するものとしても意義深い。
取得額		-
展示予定		令和8年度「コトバの重なる場所」（2026年12月1日～2027年3月14日）にて展示予定
36 	種別	写真
	作者名	ムン・キョンウォン&チョン・ジュン(1969~/1969~)
	作品名	フリーダム・ヴィレッジ 運動会
	制作年	2017-21/25年
	材質・形状	デジタルプリント
	寸法	140.0 × 120.0 cm Ed. 2/8 + 2 A.P.
	解説	ムン・キョンウォンとチョン・ジュンはともに1969年生まれ。2009年より「News from Nowhere」と題したプロジェクトを共同で開始。ウィリアム・モリスによる、22世紀の未来を描いた同名の小説から着想を得て、さまざまな専門家たちと協働し、芸術の社会的役割について考察することを目的とする。2015年にはヴェネチア・ビエンナーレの韓国館代表に選出され、2021年には金沢21世紀美術館で大規模な個展が開催された。 本写真シリーズは、韓国と北朝鮮の間の非武装地帯内に位置する韓国側唯一の民間人居住区域である、「自由の村（フリーダム・ヴィレッジ）」と呼ばれる村のリサーチを元にした作品。韓国の国立公文書館から入手した村の古い写真と文章の組み合わせによって、この特異な村の実相を伝えることが試みられる。ただし写真や文章には時代錯誤的な修正や、作家の想像した状況が巧妙に加えられており、現実と虚構、事実と捏造の境は曖昧である。朝鮮戦争による分断が生み落とした象徴的な存在である村をテーマにした本作は、朝鮮半島の近現代史、朝鮮戦争を背景に戦後復興を遂げた日本の過去を照射するものとしても意義深い。
取得額		-
展示予定		令和8年度「コトバの重なる場所」（2026年12月1日～2027年3月14日）にて展示予定
37 	種別	写真
	作者名	ムン・キョンウォン&チョン・ジュン(1969~/1969~)
	作品名	フリーダム・ヴィレッジ 都羅山の展望台
	制作年	2017-21/25年
	材質・形状	デジタルプリント
	寸法	140.0 × 120.0 cm Ed. 2/8 + 2 A.P.
	解説	ムン・キョンウォンとチョン・ジュンはともに1969年生まれ。2009年より「News from Nowhere」と題したプロジェクトを共同で開始。ウィリアム・モリスによる、22世紀の未来を描いた同名の小説から着想を得て、さまざまな専門家たちと協働し、芸術の社会的役割について考察することを目的とする。2015年にはヴェネチア・ビエンナーレの韓国館代表に選出され、2021年には金沢21世紀美術館で大規模な個展が開催された。 本写真シリーズは、韓国と北朝鮮の間の非武装地帯内に位置する韓国側唯一の民間人居住区域である、「自由の村（フリーダム・ヴィレッジ）」と呼ばれる村のリサーチを元にした作品。韓国の国立公文書館から入手した村の古い写真と文章の組み合わせによって、この特異な村の実相を伝えることが試みられる。ただし写真や文章には時代錯誤的な修正や、作家の想像した状況が巧妙に加えられており、現実と虚構、事実と捏造の境は曖昧である。朝鮮戦争による分断が生み落とした象徴的な存在である村をテーマにした本作は、朝鮮半島の近現代史、朝鮮戦争を背景に戦後復興を遂げた日本の過去を照射するものとしても意義深い。
取得額		-
展示予定		令和8年度「コトバの重なる場所」（2026年12月1日～2027年3月14日）にて展示予定
38 	種別	写真
	作者名	ムン・キョンウォン&チョン・ジュン(1969~/1969~)
	作品名	フリーダム・ヴィレッジ フットバレー 2
	制作年	2017-21/25年
	材質・形状	デジタルプリント
	寸法	140.0 × 120.0 cm Ed. 2/8 + 2 A.P.
	解説	ムン・キョンウォンとチョン・ジュンはともに1969年生まれ。2009年より「News from Nowhere」と題したプロジェクトを共同で開始。ウィリアム・モリスによる、22世紀の未来を描いた同名の小説から着想を得て、さまざまな専門家たちと協働し、芸術の社会的役割について考察することを目的とする。2015年にはヴェネチア・ビエンナーレの韓国館代表に選出され、2021年には金沢21世紀美術館で大規模な個展が開催された。 本写真シリーズは、韓国と北朝鮮の間の非武装地帯内に位置する韓国側唯一の民間人居住区域である、「自由の村（フリーダム・ヴィレッジ）」と呼ばれる村のリサーチを元にした作品。韓国の国立公文書館から入手した村の古い写真と文章の組み合わせによって、この特異な村の実相を伝えることが試みられる。ただし写真や文章には時代錯誤的な修正や、作家の想像した状況が巧妙に加えられており、現実と虚構、事実と捏造の境は曖昧である。朝鮮戦争による分断が生み落とした象徴的な存在である村をテーマにした本作は、朝鮮半島の近現代史、朝鮮戦争を背景に戦後復興を遂げた日本の過去を照射するものとしても意義深い。
取得額		-
展示予定		令和8年度「コトバの重なる場所」（2026年12月1日～2027年3月14日）にて展示予定
39 	種別	写真
	作者名	ムン・キョンウォン&チョン・ジュン(1969~/1969~)
	作品名	フリーダム・ヴィレッジ 木に寄りかかって
	制作年	2017-21/25年
	材質・形状	デジタルプリント
	寸法	140.0 × 120.0 cm Ed. 2/8 + 2 A.P.
	解説	ムン・キョンウォンとチョン・ジュンはともに1969年生まれ。2009年より「News from Nowhere」と題したプロジェクトを共同で開始。ウィリアム・モリスによる、22世紀の未来を描いた同名の小説から着想を得て、さまざまな専門家たちと協働し、芸術の社会的役割について考察することを目的とする。2015年にはヴェネチア・ビエンナーレの韓国館代表に選出され、2021年には金沢21世紀美術館で大規模な個展が開催された。 本写真シリーズは、韓国と北朝鮮の間の非武装地帯内に位置する韓国側唯一の民間人居住区域である、「自由の村（フリーダム・ヴィレッジ）」と呼ばれる村のリサーチを元にした作品。韓国の国立公文書館から入手した村の古い写真と文章の組み合わせによって、この特異な村の実相を伝えることが試みられる。ただし写真や文章には時代錯誤的な修正や、作家の想像した状況が巧妙に加えられており、現実と虚構、事実と捏造の境は曖昧である。朝鮮戦争による分断が生み落とした象徴的な存在である村をテーマにした本作は、朝鮮半島の近現代史、朝鮮戦争を背景に戦後復興を遂げた日本の過去を照射するものとしても意義深い。
取得額		-
展示予定		令和8年度「コトバの重なる場所」（2026年12月1日～2027年3月14日）にて展示予定

	種別	写真
	作者名	ムン・キョンウォン&チョン・ジュン(1969~/1969~)
	作品名	フリーダム・ヴィレッジ 舞台裏にて
	制作年	2017-21/25年
	材質・形状	デジタルプリント
	寸法	140.0 × 120.0 cm Ed. 2/8 + 2 A.P.
	解説	ムン・キョンウォンとチョン・ジュンはともに1969年生まれ。2009年より「News from Nowhere」と題したプロジェクトを共同で開始。ウィリアム・モリスによる、22世紀の未来を描いた同名の小説から着想を得て、さまざまな専門家たちと協働し、芸術の社会的役割について考察することを目的とする。2015年にはヴェネチア・ビエンナーレの韓国館代表に選出され、2021年には金沢21世紀美術館で大規模な個展が開催された。 本写真シリーズは、韓国と北朝鮮の間の非武装地帯内に位置する韓国側唯一の民間人居住区域である、「自由の村（フリーダム・ヴィレッジ）」と呼ばれる村のリサーチを元にした作品。韓国の国立公文書館から入手した村の古い写真と文章の組み合わせによって、この特異な村の実相を伝えることが試みられる。ただし写真や文章には時代錯誤的な修正や、作家の想像した状況が巧妙に加えられており、現実と虚構、事実と捏造の境は曖昧である。朝鮮戦争による分断が生み落とした象徴的な存在である村をテーマにした本作は、朝鮮半島の近現代史、朝鮮戦争を背景に戦後復興を遂げた日本の過去を照射するものとしても意義深い。
	取得額	－
展示予定	令和8年度「コトバの重なる場所」 （2026年12月1日～2027年3月14日）にて展示予定	

	種別	写真
	作者名	上原沙也加(1993~)
	作品名	平和の島
	制作年	2023-25年
	材質・形状	アーカイバル・ピグメント・プリント、新聞用紙にインクジェット・プリント
	寸法	写真：各34.0 × 51.0 cm（10点組）、テキスト：42.0 × 29.8 cm
	解説	上原沙也加は1993年生まれ。東京造形大学在学中より、出身地である沖縄の写真の撮り始める。2020年第36回写真の町東川賞新人作家賞受賞。2022年に赤々舎より写真集『眠る木』を刊行。一見何気ない生活空間の風景から、記憶や傷跡、時間の層を捉えようとする繊細な表現が目立される。2023年、VOCA奨励賞と大原美術館賞を受賞。 台湾を撮影したシリーズの3作目である本作は、台湾北部の「和平島」を撮影した写真10点とテキストにより構成される。日本統治時代に社寮島と呼ばれ、琉球移民の集落も存在した和平島では、二・二八事件の際、移民を含む多くの犠牲者が出た。上原は、島を訪れた自身の体感や思考の流れを文章で丁寧にとりつつ、史跡に刻まれなかった歴史を想像することを試みる。文章と、不在を感じさせる静謐な写真は、詩のようにして写真を「読む」ことを可能にするだろう。沖縄ー台湾との関係を表す作品でもあり、本作を通じて、これまで所蔵作品展で取り上げられなかった土地や移民の歴史にアプローチすることが可能になる。
	取得額	－
展示予定	令和8年度「コトバの重なる場所」 （2026年12月1日～2027年3月14日）にて展示予定	

	種別	写真
	作者名	杉浦邦恵(1942~)
	作品名	Fever
	制作年	2021年
	材質・形状	ピグメント・プリント、アクリル、黒鉛、カンバス
	寸法	107.2 × 142.4 cm
	解説	1942年、愛知県に生まれた杉浦邦恵は、1963年に渡米し、シカゴ・アート・インスティテュートで写真を学んだ。当初より、フォトグラムなどの非写実的な暗室技法を実践していたが、1967年にニューヨークに移ってからは、当時隆盛していたポップ・アートの刺激も受けつつ、写真と絵画、具象と抽象、写実と非写実といった中間領域で、写真というメディアウムの可能性を追求し続けている。本作《Fever》が提示するのは、X線撮影によるイメージと色面との並置だ。写真的要素と絵画的要素とを対置させる試みは、1968年から72年にかけて手がけられた〈フォトカンバス〉のシリーズを想起させるが、被写体の選択は、1990年代から2000年代にかけて取り組まれたX線写真のシリーズに由来している。これまで異なる文脈上で展開されてきた企てを総括しつつ、新たな仕事として昇華させた作品だと言えるだろう。
	取得額	－
展示予定	令和10年度開催のコレクション展で展示予定	

	種別	写真
	作者名	杉浦邦恵(1942~)
	作品名	Nina's Pelvis & Leg
	制作年	2025年
	材質・形状	ピグメント・プリント、アクリル、黒鉛、カンバス
	寸法	274.0 × 117.2 cm
	解説	1942年、愛知県に生まれた杉浦邦恵は、1963年に渡米し、シカゴ・アート・インスティテュートで写真を学んだ。当初より、フォトグラムなどの非写実的な暗室技法を実践していたが、1967年にニューヨークに移ってからは、当時隆盛していたポップ・アートの刺激も受けつつ、写真と絵画、具象と抽象、写実と非写実といった中間領域で、写真というメディアウムの可能性を追求し続けている。本作《Nina's Pelvis & Leg》が提示するのは、X線撮影による骨盤ならびに左脚のイメージと色面との並置だ。写真的要素と絵画的要素とを対置させる試みは、1968年から72年にかけて手がけられた〈フォトカンバス〉のシリーズを想起させるが、被写体の選択は、1990年代から2000年代にかけて取り組まれたX線写真のシリーズに由来している。これまで異なる文脈上で展開されてきた企てを総括しつつ、新たな仕事として昇華させた作品だと言えるだろう。
	取得額	－
展示予定	令和10年度開催のコレクション展で展示予定	

	種別	映像
	作者名	リー・キット(1978~)
	作品名	Deep inside you never let go
	制作年	2018年
	材質・形状	シングルチャンネル・ビデオ（カラー、サイレント）
	寸法	3分32秒（ループ）
	解説	リー・キットは1978年香港生まれ。台北在住。近年は、絵画やドローイングにプロジェクターの光や映像、テキスト、日用品などを組み合わせた、詩的で繊細なサイトスペシフィック・インスタレーションを手掛ける。作品は、自身を取り巻く環境や個人的な経験に裏打ちされており、怒りや悲しみ、ノスタルジー、不安、孤独といった現代的な感傷が漂う。その背景には、リーが生まれ育った香港だけでなく、私たちの生きる社会に蔓延するさまざまな不条理や困難がある。2013年にはヴェネチア・ビエンナーレの香港館代表を務めるなど、国際的に評価されている。 本作は、2018年に原美術館（東京）で開催された、国内では初となる美術館での個展「僕らはもって繊細だった。」に出品された映像作品である。無防備な素足をブラブラさせ、もぞもぞと動かす様子は、映画のワンシーンのようだ。「Keep it to yourself」「Deep inside you never let go」というテキストが繰り返されるが、何を「手放さない（never let go）」なのかは明示されない。繊細なニュアンスと乾いた質感が、感傷的でありつつも形而上的な印象を与える。 リーの作品は国内の公立美術館においてこれが初の収蔵となる。特別展「非常の常」に際して制作・発表した大規模なインスタレーション作品に含まれる3点の作品に加え、これまでに日本で発表された代表的な仕事2点を合わせて収蔵することで、作家像がより立体的なものとなる。
	取得額	－
展示予定	令和10年度開催のコレクション展で展示予定	

45 	種別	映像
	作者名	リー・キット(1978-)
	作品名	Blank pages
	制作年	2025年
	材質・形状	ビデオ・プロジェクション、パンチカーペット
	寸法	1分15秒（ループ）
	解説	リー・キットは1978年香港生まれ。台北在住。近年は、絵画やドローイングにプロジェクターの光や映像、テキスト、日用品などを組み合わせた、詩的で繊細なサイトスペンフィック・インスタレーションを手掛ける。作品は、自身を取り巻く環境や個人的な経験に裏打ちされており、怒りや悲しみ、ノスタルジー、不安、孤独といった現代的な感傷が漂う。その背景には、リーが生まれ育った香港だけでなく、私たちの生きる社会に蔓延するさまざまな不条理や困難がある。2013年にはヴェネチア・ビエンナーレの香港館代表を務めるなど、国際的に評価されている。 本作は、2025年に開催した「非常の常」展のために制作した作品のひとつ。展示作業のために美術館に滞在している間に制作して完成させた。インスタレーションにおいてはカーペットを壁面に設置し、その上にプロジェクションすることにより、映像の質感に柔らかさと曖昧さが加味された。映像には鑑賞や批評についての散文的なテキストが組み込まれており、とりわけ《Porn》との関連性を見出すことができる。リーの作品は国内の公立美術館においてこれが初の収蔵となる。特別展「非常の常」に際して制作・発表した大規模なインスタレーション作品に含まれる3点の作品に加え、これまでに日本で発表された代表的な仕事2点を合わせて収蔵することで、作家像がより立体的なものとなる。
	取得額	-
	展示予定	令和7年度特別展「非常の常」（2025年6月28日～10月5日）にて展示実施
46 	種別	映像
	作者名	ムン・キョンウォン&チョン・ジュン(1969-/1969-)
	作品名	未知からの知らせ：フリーダム・ヴィレッジ
	制作年	2021年
	材質・形状	2チャンネル・ビデオ・インスタレーション（カラー、サウンド）
	寸法	14分35秒 Ed. 2/5 + 2 A.P. + 1 exhibition copy
	解説	ムン・キョンウォンとチョン・ジュンはともに1969年生まれ。2009年より「News from Nowhere」と題したプロジェクトを共同で開始。本作は、韓国と北朝鮮の間の非武装地帯内に位置する韓国側唯一の民間人居住区域である、「自由の村（フリーダム・ヴィレッジ）」と呼ばれる村のリサーチを元にした作品。朝鮮戦争休戦時の住民の直系子孫のみ居住できるこの村では、「自由の村」の呼称とは裏腹に、住民の行動が厳しく管理されている。 2面の映像インスタレーションである本作では、一方の画面では村で労働に勤しみつつ、森の植物を熱心に採取し記録する男性Aが、もう一方には未来の宇宙ステーションのような閉鎖空間で管理された生活を送る若い男性Bの様子が映し出される。Aが風船で飛ばした植物標本があるときにBの元へとやってくる。監視の目を盗み植物を育て始めたBは、閉鎖空間の外へと踏み出す意志を固め始める。 近年、当館ではアジア圏の作家の作品を中心にコレクションを拡充してきたが、韓国の作家の作品はまだ少ない。ムン&チョンは韓国を代表するアーティスト・デュオであり、作品の完成度の高さと注目に値する。
	取得額	-
	展示予定	令和8年度「コトバの重なる場所」（2026年12月1日～2027年3月14日）にて展示予定
47 	種別	映像
	作者名	志賀理江子(1980-)
	作品名	風の吹くとき
	制作年	2022-25年
	材質・形状	シングルチャンネル・ビデオ（4K、カラー、サウンド）
	寸法	37分07秒 Ed. 1/1 + A.P.
	解説	志賀理江子は1980年愛知県生まれ。2008年に宮城県名取市北釜に移住し、2011年東日本大震災で被災して以降、「復興」とそれに翻弄される人間の心身に迫る作品を制作してきた。本作は、2022～23年に制作・発表した7チャンネルの映像インスタレーション《風の吹くとき》をもとに、当館開催の「プラカードのために」出品に際し新たに編集したファイナルバージョンである。志賀が活動拠点とする東北沿岸部は、近代日本の発展を支え、大都市に対して食料や労働力、さまざまなエネルギー資源を供給し続けてきた。本作は、搾取と犠牲の上に成り立つその構造のなかで、「東北」と中央から方角によって名指されてきた土地の人々がいかに生きてきたのかを公に表すべく制作されたとも言える。マイクを手にした女性は始終まっすぐこちらを見つめ、「ここぞでなにかあったのか」を語り、志賀の紡いだ言葉や思いを代弁する。日本の現代美術・現代写真を語るうえで欠かすことのできない志賀理江子の新たな展開を示す作品である。
	取得額	-
	展示予定	令和7年度特別展「プラカードのために」（2025年11月1日～2026年2月15日）にて展示実施
ほか32点／計79点 購入総額：402,317,703円		